河川で繋がる人々の輪、水辺を活かした地域づくりへ
「ミズベリング十勝会議 in 十勝川温泉」

地域の人々から十勝を賑わす

平成 28 年２月 27 日、２８日の２日間にわたって、音更町十勝川温泉地区で水辺を活かした地域づくりを目指すミズベリング十勝会議が音更町主催で開催された。

開催に当たっては、一般参加者も公募し、地元十勝の民間企業や団体、関連行政も巻き込み、水辺体験（アクティビティ）やパネルディスカッションを行った。

オープニングで音更町商工観光課長の井原氏は「水辺体験や水辺を中心とした観光にまつわるディスカッションを大勢で行うことにより、水辺に興味を持ってほしい」また、「その楽しさを再認識することにより、少しでも多くの方が十勝川をきっかけに音更町と係わり、十勝川温泉地区、ひいては十勝の賑わいとしたい」と語った。

この会議は、３部構成となっており、第１部は帯広市を流れる帯広川で、第２部及び第３部は音更町十勝川温泉地区で開催され、参加人数は延べ１６０名にのぼった。

十勝の冬の水辺は魅力的！

第１部　TOKACHI　WINTER　RIVER　CRUSING

「水辺の楽しさは夏だけではない。寒さも吹き飛ぶ感動がここにある。」快晴に恵まれたこの日参加した方は皆そう感じただろう。帯広市街地のほぼ中心を流れる帯広川で、水辺や野鳥を観察しながらＥボートでゆったりと川を下る。白鳥やカモは、一緒に流れたり、飛び立ったりとサービス満点、まるで参加者と楽しむかのようだった。白鳥が泳ぐ姿や飛

ぶ姿だけでなく、飛び立つ瞬間を下（水面）からみられるのが帯広川ならではの醍醐味。最後は石窯焼き十勝ピッツアや十勝産小麦粉にこだわったオープンサンドなどが振る舞われ、十勝の食材で心も体も満たされる贅沢な冬のアクティビティでした。

冬の十勝は最高！

十勝の食材をふんだんに使用したサンド

観光・食・環境を束ねる地域連携こそが重要なトリガー

第２部　パネルディスカッション　－水辺を活かした地域の未来創生－

水辺の楽しさを体感した後は、水辺を活かした“観光”や“まちづくり”ひいては地域振興・発展に資するトークバトルが開幕。コーディネーターとパネラーに傍聴者も加わり白熱した意見交換が行われた。

十勝の魅力を伝え、地域自慢や共感し合うことが人々の心に残り、観光に繋がる

十勝川温泉第１ホテル常務取締役の杉本浩章氏は「地域の魅力の伝え方」、十勝バイシクルプロジェクト代表の小川宣幸氏は「河川を活かした自転車観光の魅力」、サムライプロデュース取締役社長の西脇あつし氏は「十勝観光が向かうべき道」について熱く語った。

河川教育（学び・体験）が河川環境保全や観光への一躍を担う

帯広 NPO28 サポートセンター理事長の千葉利光氏は、河川教育のなかで川での正しい遊び方を体験することにより、水辺に向かう家族が増え河川利用の活性化に繋がると語った。これは、川を大切にすることを学び、ゴミ捨てを減らす意識をもつことなどが観光へも繋がるという可能性を述べたもの。コーディネーターを務めたミスベリング・プロジェクト・アドバイザー堂薗俊多氏（国土交通省河川環境課）は、河川環境の保全に関する全国の取り組み事例について紹介し、パネラーや傍聴者は熱心に聞き入っていた。

すべての人々に関わる循環、これこそが地域連携

帯広大谷短期大学教授の関川三男氏、十勝川イカダ下り実行委員長の藤堂博氏は、これまでの経験をもとに、「食が人や観光を育てる」ことや「地域の多種多様な活動者をどう結びつけられるか」など、今後の十勝の未来創生に向けた道筋を語った。

ﾐｽﾞﾍﾞﾘﾝｸﾞ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　堂薗俊多氏　　十勝川温泉第一ホテル常務取締役 杉本浩章氏

贅沢すぎる河川空間で観光モニターテスト！

第３部　犬ぞりカフェ

「雄大な十勝川の大自然との一体感を感じる場所はここにしかない。」前日に続き十勝晴れに恵まれた空は十勝ブルー一色、タンチョウ・白鳥・オジロワシが飛び、遠くには気球も浮かぶ。また目を下に向けると白銀の河川敷が広がり、十勝川の水面に蓮葉氷が流れる。当日「こんな贅沢な河川空間を活かさないわけにはいかない」と、第３部の仕掛け人サムライプロデュース西脇氏と、犬ぞり体験にご協力いただいたマッシングワークス滝田氏は改めて思った。「氷の上や水際を犬ぞりが駆け、焚き火で暖をとり、野鳥観察しながら優雅にティータイムを過ごす」というモニターテストを実施した。 参加者からは「来季もぜひ」と多くの声が挙がった。

犬ぞり体験（協力：マッシングワークス）

cafe

地域の未来創生

十勝川温泉地区では、今年 10 月に複合施設「ガーデンスパ十勝川温泉」もオープンし、さらに人々の触れ合いが増し、身近になった水辺を中心に益々地域活性化が図られるだろう。これらをきっかけに十勝の地域創生が更なる盛り上がりを見せることに期待したい。